

町歌 (昭和43年7月25日制定)

開基70年を記念して作成しました。歌詞は一般公募で淵柳光男さんの作品が選ばれ、当時、学芸大学旭川分校の教授であった坂本富貴雄さんが補作しました。作曲は教員を退職後、剣淵に在住していた斉藤学児さんです。

- 1 見よ朔北の 空晴れて さみどりかおる 平波山や
われらが父母の 拓きたる 千古神秘の 原始林
たのしき郷土 剣淵の ああうるわしき 山の嶺
- 2 音無川の 水ぬるみ さわらび萌えて 風わたる
みなぎる希望 たくましく 友情とわに 誓いつつ
さかゆる郷土 剣淵の ああ遙かなる地平線
- 3 夕日に映ゆる 美羽鳥 明日を築く 諸人に
平和輝く 未来あり あふるる幸よ 花ひらく
のびゆく郷土 剣淵の ああゆたかなる この沃野

基本構想



まちづくり「絵・作文コンクール」入賞作品 (その1)

小学4年生～6年生と中学生のみなさんから、『自分が思う未来の剣淵町』をテーマに、これからの剣淵について絵画と作文を募集しました。

絵の部(小学生の部)



6年生 大川 晏奈さん (最優秀賞)



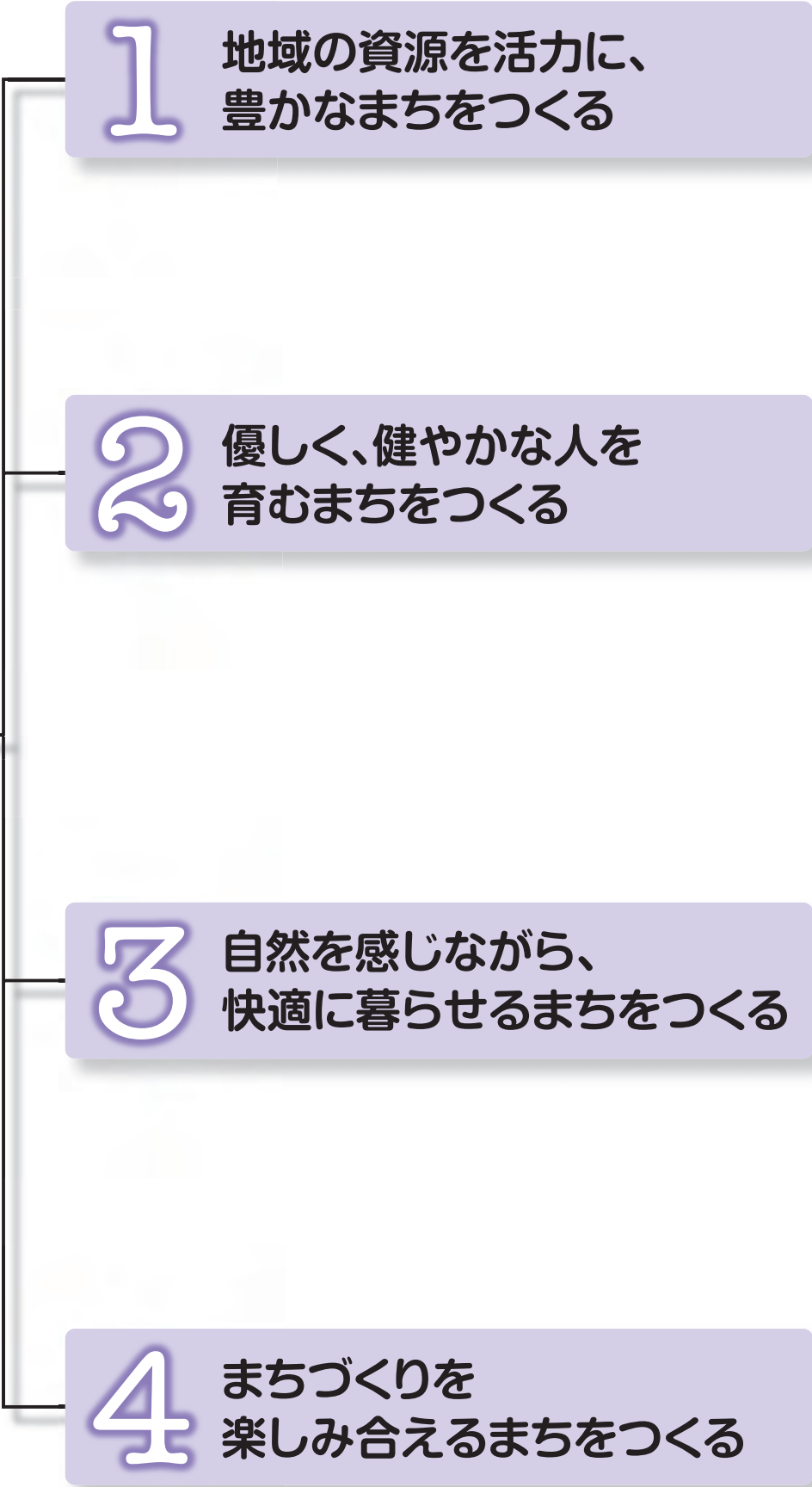
4年生 徳井 太一さん (優秀賞)



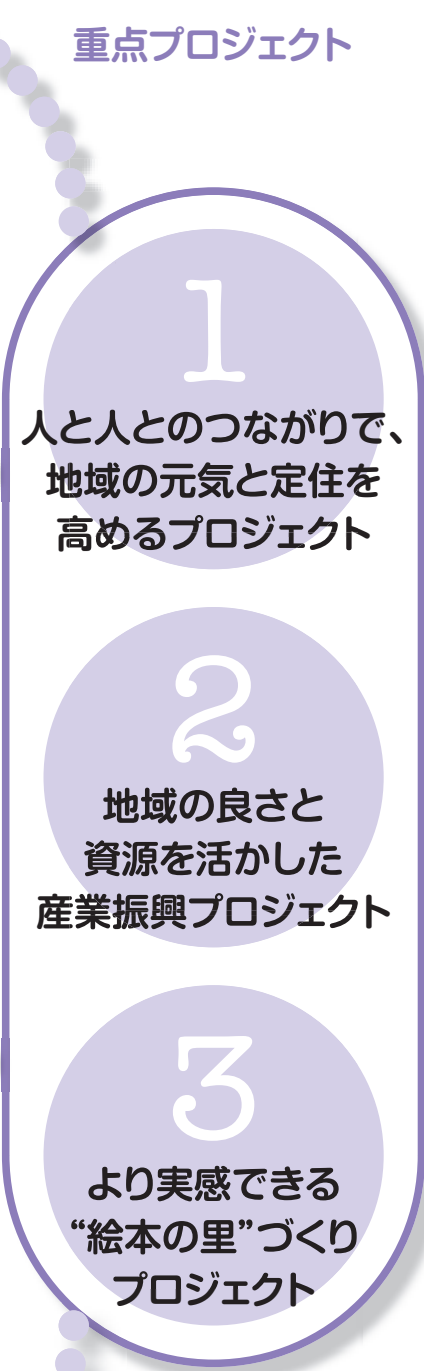
4年生 松田 亜美さん (優秀賞)

作文の部(中学生の部)は32・38ページに掲載しています。

人・夢・大地
やさしさを奏でる 絵本の里けんぶち



- 1 農業〔基盤〕
- 2 農業〔経営〕
- 3 農業〔安全安心な農業〕
- 4 農業〔他の分野と連携した新たな取り組み〕
- 5 林業
- 6 商工業
- 7 観光
- 8 特産品
- 9 就労環境
- 10 子育て支援
- 11 小学校、中学校
- 12 高等学校
- 13 青少年の健全育成
- 14 生涯学習
- 15 芸術文化、文化財
- 16 スポーツ活動
- 17 健康づくり
- 18 医療
- 19 地域福祉
- 20 高齢者福祉
- 21 障がい者福祉
- 22 社会保障
- 23 自然保護、環境共生
- 24 排水処理、し尿処理
- 25 ごみ処理、リサイクル
- 26 公園、憩いの場
- 27 墓地、火葬場
- 28 防災
- 29 消防、救急
- 30 交通安全
- 31 防犯、消費者対策
- 32 土地利用
- 33 住宅、宅地
- 34 水道
- 35 景観、環境美化
- 36 道路
- 37 公共交通
- 38 情報通信
- 39 交流
- 40 コミュニティ
- 41 まちづくり活動
- 42 広報、広聴
- 43 男女共同参画
- 44 行政運営
- 45 財政運営
- 46 広域行政



1 はじめに

1 「総合計画」とは

剣淵町ではこれまで、まちづくりの全体計画として、4期にわたり「総合計画」を策定してきました。

総合計画とは、剣淵町がまちづくりを進めていくうえで、最も上位に位置づけられる計画であり、まちづくりに関係する取り組み（施策・事業）を、総合的に示しています。

5期目にあたるこの計画は、平成23(2011)年度から平成32(2020)年度までの、10年間の計画期間としています。

「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つで構成し、それぞれの内容については、次のとおりです。

① 基本構想

剣淵町が目指す将来像をはじめ、全体的な方針を示しています。

② 基本計画

基本構想で定めた将来像を踏まえて、まちづくりに関する取り組み（施策・事業）を分野別に示しています。

10年間の間に変化する、時代の流れや状況に対応するために、中間年度で内容を見直すことを予定しています。

なお、取り組みの中で、特に重視して取り組むべき内容を抽出し、「重点プロジェクト」として示しています。

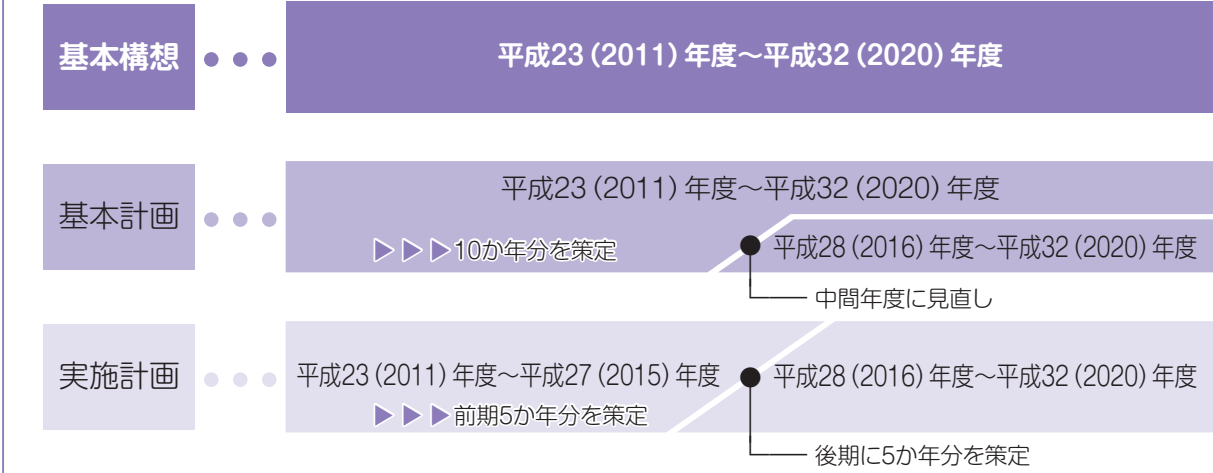
③ 実施計画

基本計画で示した取り組み（施策・事業）を、予算を踏まえて効率的、計画的に進めていくため、実施する時期や事業の量などを示しています。

より実状に沿って具体的に進めていくため、平成23(2011)年度から平成27(2015)年度を「前期」、平成28(2016)年度から平成32(2020)年度を「後期」と位置づけます。

はじめに優先度の高い事業を中心に、前期5か年分を策定します。

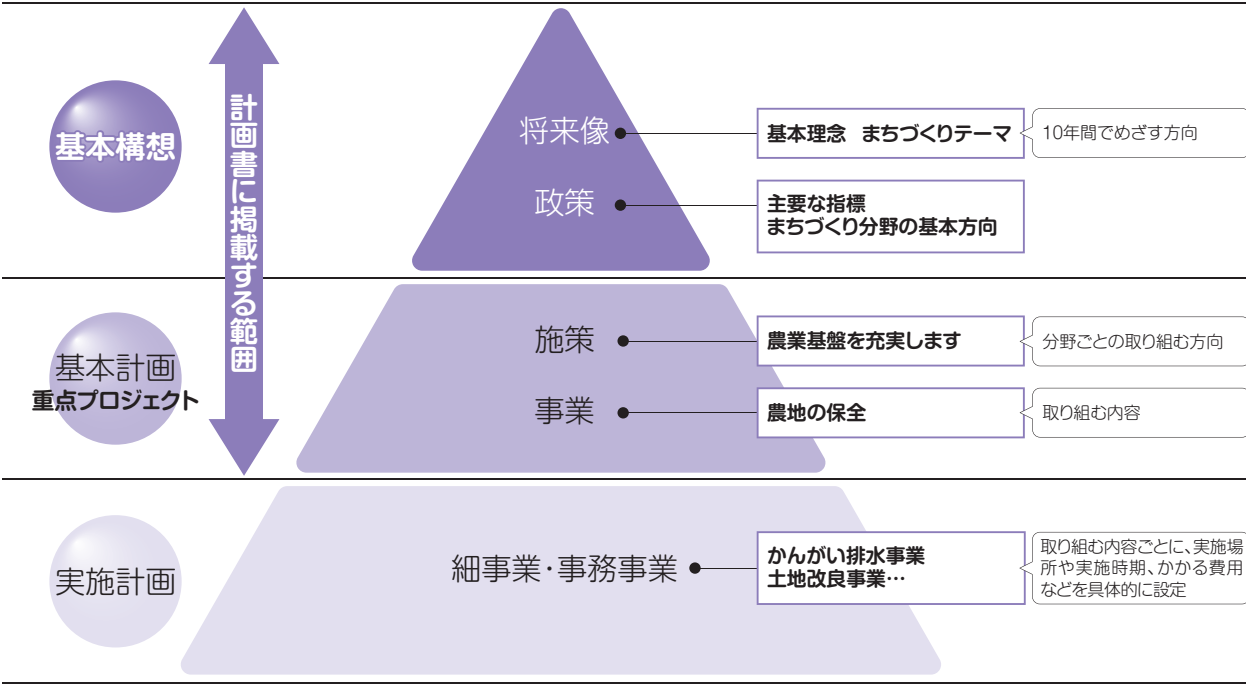
その後、前期の実施状況を確認したうえで、後期5か年分を策定します。



＜参考＞ 「基本構想」「基本計画」「実施計画」で示す範囲

総合計画書として編集する部分は「基本構想」と「基本計画」です。

「実施計画」は、庁内の資料として作成し、「基本計画」で位置づけた取り組みごとに「事業」を設定し、10年間で計画的に取り組んでいきます。



1 はじめに

2 剣淵町のいま

剣淵町は、北海道の中央よりやや北に位置し、東西10.8km、南北12.6km、総面積131.2km²の、北海道の中では小さなまちです。

面積の約50%を農耕地、約30%を山林が占めており、標高は最高440mで、大きな起伏はありません。

名寄盆地に属し、天塩川の支流・剣淵川がまちの中央部を流れ、剣淵川流域の平地とその両側の丘陵地帯は、いずれも農業に適した土地となっています。

明治30年、天塩国上川郡に剣淵村、土別村、多寄村、上名寄村が設置され、明治32年には屯田兵337戸が入地し、戸長役場が剣淵村に置かれました。

大正4年4月に現在の和寒町、昭和2年10月に現在の土別市温根別町がそれぞれ分村し、昭和37年1月の町制施行を経て、現在に至っています。

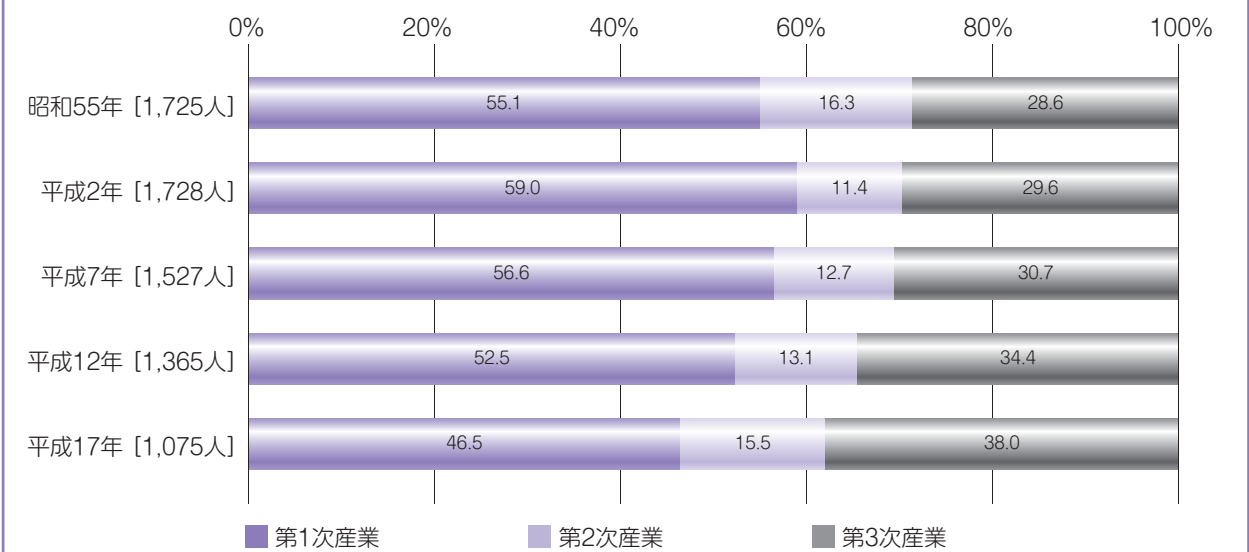
総人口は昭和29年の9,530人をピークに減少し、平成22年の国勢調査(速報値)では3,569人で、年齢構成では、平成17年に65歳以上の住民が3割以上を超え、高齢人口が増えています。

世帯数は少しずつ減少する方向で、1世帯あたりの平均人員も減少しています。

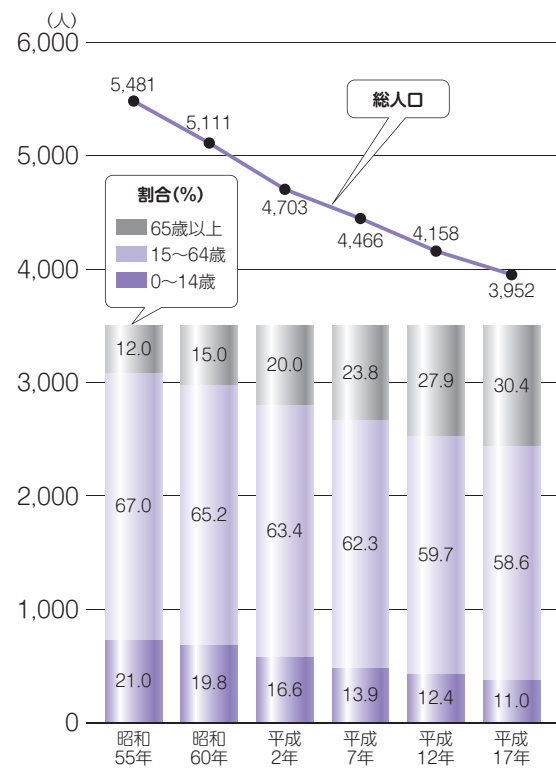


基幹産業は畑作、稲作を中心とした農業で、産業別就業人口構成で見ると、第1次産業が多くを占めていますが、近年、第2次・第3次産業の割合が高まっています。

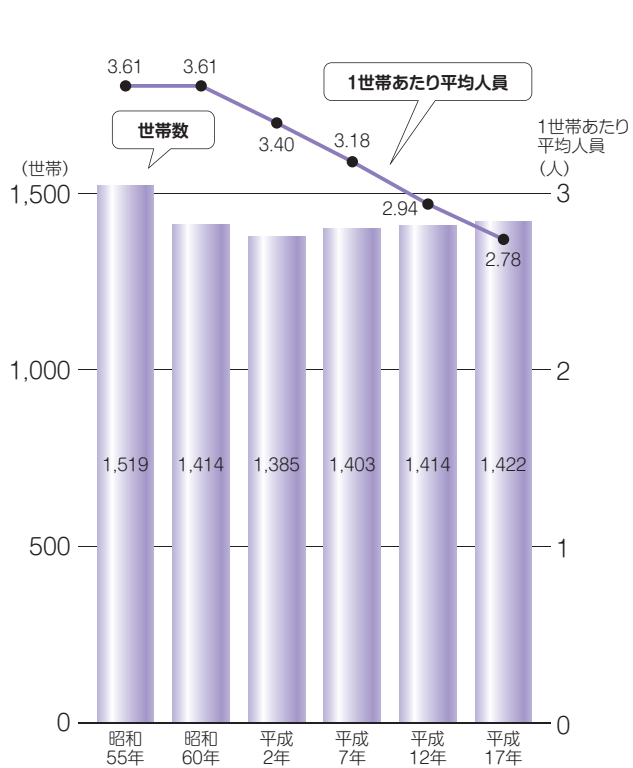
産業別の就業人口割合の推移



総人口と年齢3区分割合の推移



世帯数と1世帯あたり平均人員の推移



学校教育施設は、小・中学校が各1校あるほか、平成21年度から「総合学科(農業国際系列、生活福祉系列)」に学科転換した剣淵高等学校があります。

子育てを支援する保育施設としては、常設保育所と季節保育所のほか、学童保育所があります。

医療、保健、福祉の拠点施設としては町立診療所と健康福祉総合センターを併設しているほか、高齢者等福祉寮「福寿寮」、特別養護老人ホーム「剣淵ひらなみ荘」、知的障害者更生施設「剣淵西原学園」、知的障害者授産施設「剣淵北の杜舎」があり、住民の健康づくり、高齢者や障がい者等の生活を支えています。

生涯学習施設としては、“絵本の里”づくりの拠点施設でもある絵本の館があり、町内外から多くの人が訪れています。

また、国道40号沿いには道の駅「絵本の里けんぶち」、ビバアルパカ牧場(民間)、中心市街地にはまちの駅(観光交流センター)、桜岡公園には剣淵温泉レークサイド桜岡をはじめパークゴルフ場やオートキャンプ場など保養・レクリエーション施設があり、観光や交流の拠点となっています。

そのほか、平成21年には洪水の調整や水道水源の確保を目的とした西岡ダムが完成し、住民の生活を守り、支えています。

1 はじめに

3 時代の流れからみる、全国的なまちづくりの課題

国内外の動きから、全国的なまちづくりの課題をまとめると、次のとおりです。

(1) 年齢構成、人口分布の偏りが進んでいます。

時代の流れ

- ・日本の人口が減少に転じ、都市部に人口が集中するなか、地方では過疎化と少子高齢化がますます進み、「超高齢社会」と言われる人口構成になっています。
- ・過疎化の影響は地域の活力低迷に留まらず、さらに細かい地区でみると、人口減少と高齢化で、地域での支え合いが難しくなっているところもみられます。
- ・家族単位でみると、核家族や高齢者の世帯が増え、子育てや老後、介護への不安が高まっています。

全国的なまちづくりの課題

- 自分自身や家族・集落単位では担いきれない介護や子育てなど、コミュニティ機能を支えるしくみが必要となっています。
- 持続可能な地域づくりを進めていくうえで、若年層の拡大、高齢者の健康管理などもこれまで以上に重要な課題となっています。
- 今住んでいる人たちの満足感を維持し、定住を促すとともに、地域に関心を持つ人たちを地域に巻き込み、移住や交流を増やしていくことで、地域の活力を高めていくことが必要となっています。

(2) 一人ひとりの価値観が多様化しています。

時代の流れ

- ・個々の価値観が多様化し、個性や人権を尊重する意識が高まっています。
 - ・「早い、便利」だけでなく「じっくり、ゆっくり」の良さ、大切さも見直され、生活スタイルも、豊かな自然に囲まれ、のんびりと暮らすことを選ぶ人が増えています。
- 過疎化が進む地域でも、エコツーリズム※1やグリーン(マリーン)ツーリズム※2などを通じて、都市との交流を地域の活力に結び付けようとする地域も増えています。
- ・経済産業面でも、個々の消費者の価値や志向を大切にしたモノやサービスが支持されるようになっています。

全国的なまちづくりの課題

- “スローライフ※3”や“いなか暮らし”を求めて来る人たちを受け入れることも、地域の活性化策として位置づけられています。
- 観光・交流においても、人の心をつかむサービスやおもてなしを大切にすることが、多くの人を呼び、長く支持される秘訣となっています。

※1 エコツーリズム：自然環境や歴史文化など、地域が持つ魅力に触れたり学んだりすることを目的とした観光のことです。

※2 グリーン(マリーン)ツーリズム：農山漁村に滞在し地域の自然や文化、人々などとの交流を楽しむことで、農村や山村ではグリーンツーリズム、漁村ではマリーンツーリズムと言われます。

※3 スローライフ：地域の自然や文化、人などとともに、ゆったりした時間の流れを楽しむ生活のことです。

(3) 安全安心、安らぎを求める人が増えています。

時代の流れ

- ・食に対する関心が高まり、「安全安心」を求める消費者が増え、その結果、食を生産する過程や、食を育てる産地への関心も高まっています。
- ・食以外にも、暮らしのさまざまな場面で「安全安心」はキーワードとなっています。
- ・「安らぎ」「癒し」「潤い」といった、心の豊かさや安定を求める人が増えています。

全国的なまちづくりの課題

- 食料自給率の向上も課題として取り上げられるなか、特に北海道には、食料生産基地としての期待とともに、「安全安心」な食の提供が求められています。
- 防犯、防災、交通安全、子育て、老後の生活など、「安全安心」な暮らしが地域に求められています。
- 観光・交流においても、「安らぎ」「癒し」を求めて訪れる人が増えるなか、それらをいかに提供できるかが課題となっています。



1 はじめに

(4) 環境への関心が高まる一方、負荷軽減への責任が求められています。

時代の流れ

- ・地球温暖化を防ぐため、環境への負荷を軽減する取り組みが、個人から国までさまざまなレベルで求められています。
- ・資源の乱獲や無秩序な森林や土地の開発などで、自然環境、動植物の生態系が大きな影響を受ける状況は続いており、自然環境の保全がより一層必要とされています。
- ・環境への負荷の少ない「新たなエネルギー」や、エネルギー効率の向上をめざす「省エネルギー」についても、具体的な取り組みが進んでいます。
- ・限りある資源として水資源が重視されるなか、水源のかん養、二酸化炭素の吸収など重要な機能を持つ森林の保全が、国全体の課題となっています。

全国的なまちづくりの課題

- 環境への意識を高め、負荷を軽減していくことが求められています。
- 森林や水源も含め、豊かな自然環境を抱える地域においては、地域の財産としてはもちろん、日本あるいは地球全体の財産として、それらの資源を大切に守っていくことが求められています。
- いろいろなエネルギーを地域で利用することが可能となり、地域の特性にあったエネルギー利用を取り入れることも求められています。

(5) 交流が世界に広がる一方、近隣とのつながりが薄くなっています。

時代の流れ

- ・交通や情報のネットワークが広がり、人やモノ、情報の交流が、国境や地域を越えてより一層活発になっています。
- ・交通や情報の利便性が、企業立地や定住の重要な条件となっています。
- ・情報を収集する手段として、インターネットが急速に普及しており、それを活用できる環境や知識があるかないかで、情報格差が生まれています。
- ・経済市場も全世界に拡大する一方で、競争相手も全世界となり、激化しています。
- ・地域での住民相互の付き合いなどの「地縁、血縁」が希薄化する一方で、個々の価値観が多様化し、趣味などでつながる「好縁※」での交流が見られます。

※ 好縁：スポーツや旅行の仲間、ファンクラブなど、趣味や関心のあるものが同じ者同士の結びつきを「好縁」と言います。

全国的なまちづくりの課題

- 住む人、訪れる人が国際化するなか、それらに対応した環境整備やまちづくりが必要となっています。
- 今まで「立地が不利」といわれた地域でも、産業振興や移住を促進するために、情報の利便性を高めていくことが求められています。
- 地域産業の振興を考えるうえで、世界的な経済動向を視野に入れて取り組んでいくことが必要となっています。
- 家族や地域社会の支え合いで成り立っていたこと（子育てや介護、子どもの見守りなど）をどのような形で行っていくかが課題となっており、その解決策の一つとして「好縁」によるサポートも期待されています。

(6) 地域一体でまちづくりに取り組む仕組みと行動力が必要となっています。

時代の流れ

- ・地域主権に関わる具体的な動きが広がり、財政状況が厳しくなる一方、地方自らの判断と責任が求められています。
- ・人口と財源が減少するなか、公共サービスの見直しが必要となっています。
- ・自治体間や産学官での連携など、他の自治体や法人、団体とともに、お互いに協力しあい、工夫して、厳しい状況を乗り越えようとする動きも見られます。

全国的なまちづくりの課題

- 自分たちの地域づくりの考え方、方向性などを明確に内外に示すことが、より一層必要となっています。
- さまざまな権限が移譲されても、それらを適切に受け止めることができる体制を地域全体でつくっていくことが課題となっています。
- 限りある人員と財源で、公共サービスを提供し、まちづくりを進めていく経営能力がより一層必要となっています。
- 住民と行政が、お互いの立場を理解し補完し合い、地域の課題をともに解決していく“協働”の志と実践が求められています。
- 観光、環境、医療など、広域的な取り組みによってより効率や効果が期待されるテーマにおいては、さらなる連携が必要となっています。

1 はじめに

4 剣淵町の課題

まちづくりの課題も踏まえて、剣淵町がこれから取り組むべき課題を考えると、次のとおりです。

(1) 住みたい人が住み続けられ、住みたい人が来るまちになるには、どうすべきか。

剣淵町の人口は平成17年の国勢調査で4,000人を下回り、その後も減少傾向が続いているなかで、高齢化も進み、地域経済や行政運営に及ぼす影響が懸念されています。

剣淵町として持続可能な人口規模と年齢構成を維持することは、今後10年間のまちづくりの課題です。

そのためには、今住んでいる人たちに加え、新たに人口を増やす取り組みが必要です。

剣淵町では、多くの子どもが就学や就職を機にまちを離れますが、高校生の約3割、中学生の約4割は、「一度は町外に出ても、また剣淵に戻ってきたい」と考えています。

就労の場や住居など、剣淵町で育った子どもたちが、引き続き、あるいは将来、剣淵町で暮らせる環境をまち全体で考えていく必要があります。

今住んでいる人の中には、特に老後において剣淵町に住み続けることに不安を抱いている人が少なくありません。

医療や公共交通、身近な買い物場など、生涯を通じて暮らしのできる環境を整えていくことも必要です。

これまで大きな災害がなく、札幌市、旭川市といった中心都市へのアクセスが比較的良い剣淵町は、「いなか暮らし」の魅力を備えています。

剣淵町に住みたいと思う人が増え、さらには実際に住む人が増えるよう、その条件を整え支援していく必要があります。

アンケート等より

- 中高生に定住意向を尋ねたとき「一度は町外に出ても、また戻ってきたい」という答えが、高校生は約3割、中学生は約4割を占めます。
- 町外からの移住も含め、定住については「条件が整えば、剣淵に住みたい人は多い」という意見が多く寄せられました。
- 一方、医療や公共交通など、高齢期でのまちの暮らしに不安がある住民も少なくありません。



アンケート等より

- 「農業の振興」や「農業や商工業に活力のあるまち」を将来に望んでいます。
- 「できるかぎり地元の農産物を食べたい、利用したい」「地元の農産物を贈答品などで利用したい、町外にPRしたい」など、地域全体で農業を応援する気持ちが高いです。



(2) 農業がまちの基幹産業として安定し、魅力となって広がるには、どうすべきか。

剣淵町にとって農業は、地域の経済を支える基幹産業であり、農村風景や農産物を通じてまちのイメージを創っている大切な要素です。

有機栽培など安全安心な農産物づくりに早くから取り組んでいること、剣淵高等学校の花づくりが、まちの「花いっぱい運動」を支えていることなど、剣淵町の特長です。

労働力の高齢化や後継者の不足、世界市場での競争など、農業を取り巻く環境がめまぐるしく変わり厳しい状況が続くなか、農業を安定させ、農業を軸としたまちづくりを続けていくには、農業関係者に限らず、地域全体で剣淵町の農業に関心を持ち、町全体で盛り上げていく必要があります。

そのためには、商業や観光との連携を深め、特産品の開発により農産物の付加価値を高める、あるいは農業体験を観光、交流に活かすなど、他の産業と連携を深める必要があります。

さらに、農家以外の住民が生産や流通、販売を行う、地場農産品を利用する、町外にPRするなど、積極的に農業に関わっていく必要があります。

1 はじめに

(3) 「“絵本の里”けんぶち」を、もう一歩前に進めるには、どうするべきか。

昭和63年に「けんぶち絵本の里を創ろう会」の活動から始まった“絵本の里”づくりも20数年がたち、道内はもとより全国的に知られ、まちづくりとして高く評価されるまでに至りました。

生涯学習や観光以外の分野でも、“絵本の里”らしさを取り組みに活かそうとする動きは広まっており、キャッチコピーにとどまらず、剣淵町の特長となりつつあります。

これからも「絵本の里らしい〇〇ってなんだろう」と、さまざまな分野や立場から“絵本の里”を考え、らしさを広めていく必要があります。

「絵本」という言葉からは、“優しさ”“ぬくもり”“世代のふれあい”など、これからの剣淵町にとって大切なことがイメージできます。

町外へのPRに利用するだけでなく、住みよさや住民活動の盛り上げにもっと活かしていくことが必要です。

“絵本の里”がここまで広まったのは、住民の積極的な行動力で進んできた結果です。

“絵本の里”を継承していくには、次代を担う若い世代、場合によっては町外者など、“絵本の里”づくりをともに考え、形にしていく仲間の輪をもっと広げていくことが必要です。

アンケート等より

- “絵本の里”という言葉も、取り組んでいることも知っている中高生は約6割を占め、内容は知らないが言葉は聞いたことがある中高生を含めるとほぼ全員に達しています。
- 第4期総合計画の重点プロジェクトで最も高く評価されたのが「絵本の里・プロジェクト」で、肯定的な評価が約6割を占めます。



アンケート等より

- “協働のまちづくり”で重要なこととして、「まちづくりを計画する際に、住民が参加できる機会を増やす(住民と行政がまちづくりについて、ともに考える機会を増やす)」「日頃から住民と職員が接する機会を増やし、お互いの理解を深める」などがあげられています。



(4) 支え合いの心を“協働の力”にしていくには、どうするべきか。

地域のことは地域に住む住民が決める「地域主権」の考えのもと、剣淵町においても、地域の課題を地域の力で解決していかなければなりません。

そのためには、剣淵町に住む者同士が、立場や年齢、経験の違いなどを越えて、知恵や力を出し合い、“協働のまちづくり^{※1}”で課題を解決していく必要があります。

剣淵町ではこれまで、イベントや各種まちづくり活動など、小さいまちならではの顔の見える共同作業を通じて、“協働のまちづくり”を進める土壌を培ってきました。

また「西原の里(剣淵西原学園、剣淵北の杜舎)」は地域住民として地域で交流し、まちづくりに参加するなど、ノーマライゼーション^{※2}も定着しています。

剣淵町民が持つ支え合いの心で“協働のまちづくり”の力につなげていくには、剣淵町のまちづくりについて考え、課題の解決に向けて行動する機会を増やしていくことが必要です。

※1 協働のまちづくり：住民と行政がお互いの立場を理解し補完し合い、地域の課題をともに解決しながら、まちづくりを進めていくことです。

※2 ノーマライゼーション：障がいや年齢によって差別されことなく、社会のなかでみんなが同じように生活し、活動することが本来あるべき姿であるという考え方です。

2 基本構想

1 基本理念

「剣淵町」が開村して110数年がたちました。

過疎・少子高齢化、日本全体の人口減少、社会経済の低迷など、剣淵町を取り巻く国内の情勢は厳しい状況が続いていますが、いつまでも住みよいまちであってほしいという住民の想いは、ますます高まっています。

これまで進めてきた取り組みを継承しながら、よりよい剣淵町にしていくためには、自覚と責任を今まで以上に強く持ち、それぞれの立場で協力し合いながら、剣淵町の住みよさや魅力を守り育てていくことが必要です。

このようなことから、基本理念を次のように定めます。

- 「住みよさ」と「持続・発展」を両立していく計画とします。
- 剣淵にある魅力や良さが、もっと知られ、伸びてゆく計画とします。
- 「共生」や「調和」の視点を持ち、他者や自然との関わりを大切にする計画とします。
- “協働のまちづくり※”が町全体に広がり、定着するきっかけとなる計画とします。

※ 協働のまちづくり：住民と行政がお互いの立場を理解し補完し合い、地域の課題をともに解決しながら、まちづくりを進めていくことです。



2 まちづくりテーマ

剣淵町ではこれまで、「恵みの大地 けんぶち」「恵みの大地 彩りの街 けんぶち」「扉の向こうに物語がある…誇れる大地 夢ひらくまち けんぶち」と、農業の象徴である「大地」をキーワードにしたテーマ(将来像)を掲げ、まちづくりを進めてきました。

この間、田畑が広がる大地に彩りの街が生まれ、“絵本の里”という夢がひらき…と、少しずつ、今の剣淵町へと発展してきました。

“絵本の里”は、人の心を大切にしたまちづくりを一貫して進めてきた結果であり、剣淵町の財産です。

人づくりや支え合いの大切さが問われ、求められる今日、これからも変わることなく、“絵本の里”づくりをさらに進めていくことが必要です。

これからのまちづくりは、“絵本の里”づくりを住民全体でより深く理解し進めていくことによって、剣淵町に住む一人ひとりからやさしさが広がり、奏でられる“絵本の里”をめざしていくこととします。

第5期総合計画のまちづくりテーマ

人・夢・大地 やさしさ奏でる 絵本の里けんぶち

【人・夢・大地】

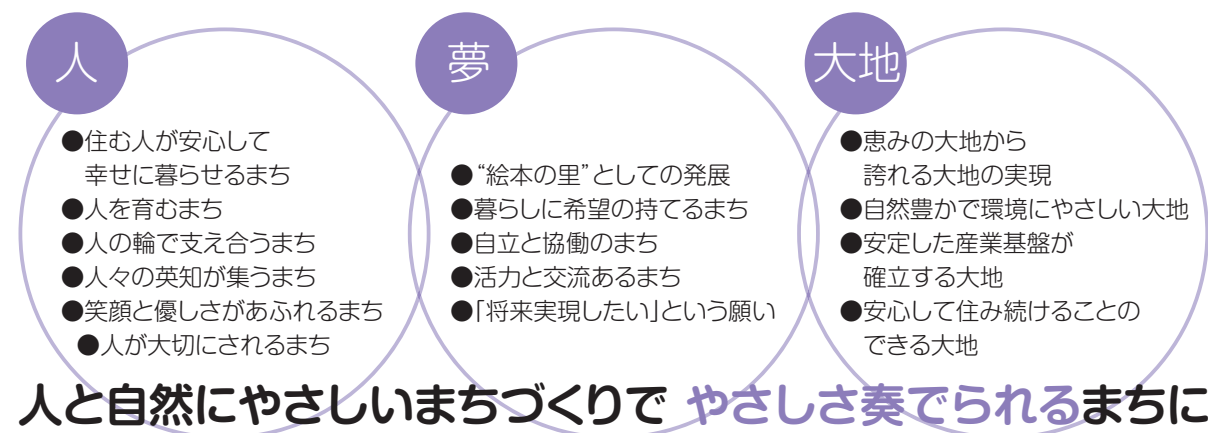
人づくりや人とのつながり、支え合いを大切にする、人にやさしいまちづくりを、農業を中心に築いてきた豊かな大地で進めます。

そして“絵本の里”とともに、この町に住む一人ひとりが夢を持ち、安心して暮らし続けることができるまちづくりをめざします。

【やさしさ奏でる 絵本の里けんぶち】

これまで培ってきた“絵本の里”づくりを継承し、人にやさしいまちづくり、環境にやさしいまちづくりを広げます。

そして、まちのさまざまな場面で、やさしさが奏でられているまちをめざします。



2 基本構想

3 主要な指標

(1) 人口の指標

平成17年、日本の人口は、初めて前年を下回りました。
北海道内のほとんどの市町村でも過疎・少子高齢化による人口減少が続いており、剣淵町でも、今後減少傾向のまま推移していくことが予測されます。
国勢調査の数値をもとに剣淵町の今後の人口を推計すると、10年後の平成32年には3,000人近くまで減少することが予測されています。
本計画では、生活環境の整備や子育て、福祉などの取り組みを中心に、人口減少の抑制に努めることとし、平成32年における総人口を3,200人とします。

これまでの人口の推移と目標年次の数値

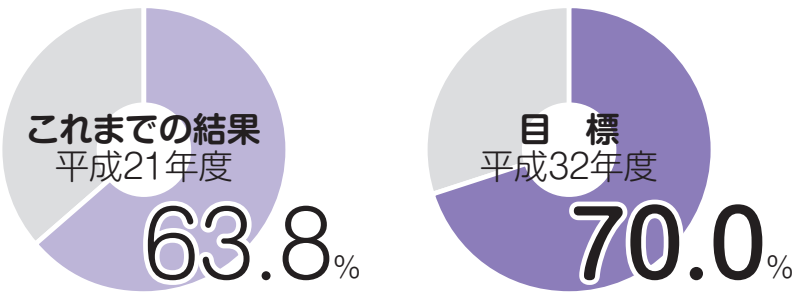
区 分	国勢調査実績			目標年次
	平成12年	平成17年	平成22年※	
総人口(人)	4,158	3,952	3,569	平成32年 3,200

※ 平成22年は速報値

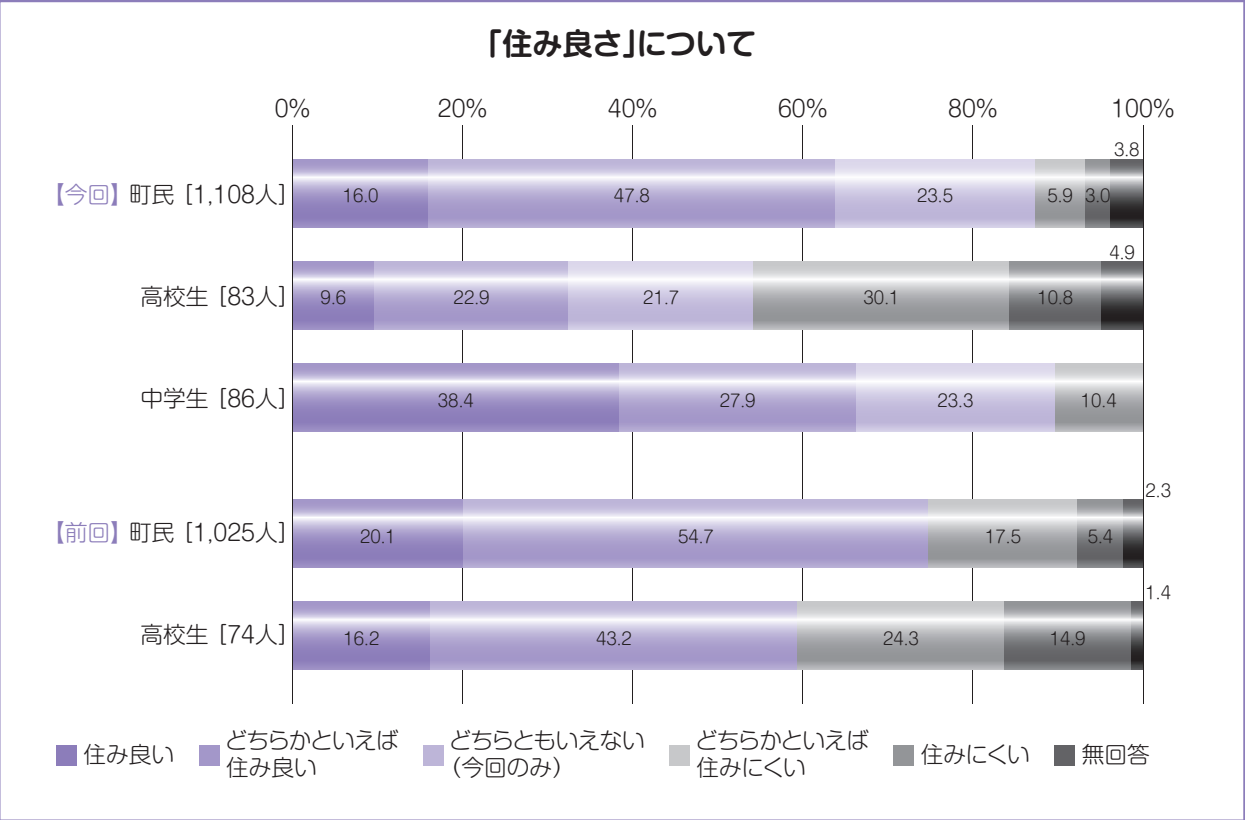
(2) 住みよさの指標

住民の住みよさ評価を図るひとつの方法として、計画策定時に実施する町民アンケートにおいて、次回は、“住みよい”との評価につながる回答が70%を超えることを目標とします。

町民アンケートで、剣淵町の住みよさについて、
「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」と回答する人の割合



<参考> 今回と前回の結果



※ 今回：平成21年度に実施 前回：平成12年度に実施

(3) 土地利用の基本的な考え

<土地利用の方針>

土地利用に関する基本的な考え方として次のように定め、利用を進めていきます。

○ 秩序を保ち、計画的に進めます。

土地の公益性を尊重し、今ある豊かな空間を後世に継承していくため、長期的な視点を持ち、秩序ある土地利用を進めます。

また、農地や森林、住宅地など、土地利用に関する考え方を踏まえて、計画的に土地利用を進めます。

○ 環境と安全性を重視します。

人間も含め多様な生物が、これからも継続して生存できるよう、地域の実情を踏まえ、環境になるべく負荷をかけない土地利用を進めます。

また、自然災害が発生しても被害が拡大しない、安全性の高い土地利用を進めます。

○ 利便性や経済力を高めます。

これからの人口構成を踏まえ、日常生活に密接に関わる施設や道路などの利便性が高まる土地利用を進めます。

また、農業の振興を促すような土地利用、町内外の人、モノ、情報などが結びつき、相乗効果が生まれるような土地利用を進めます。



<機能区分ごとの土地利用の考え方>

町域を3つのゾーンに区分したうえで、交流・レクリエーション拠点を位置づけ、それぞれの機能や役割を踏まえて、土地利用を進めていきます。

□ 市街地ゾーン

多様な年代に配慮した、便利で住みやすい住宅環境をつくりながら、“絵本の里”らしい、潤いや優しさを感じられる街づくりを進めます。

□ 農業ゾーン

生産性と安全性との両立をめざし、優良農地の維持・確保や離農地、遊休地の有効活用を進めます。

また、田畑を含めた集落の景観向上や生活基盤整備に努め、“絵本の里”らしい、潤いや、のどかさを感じられる農村づくりを進めます。

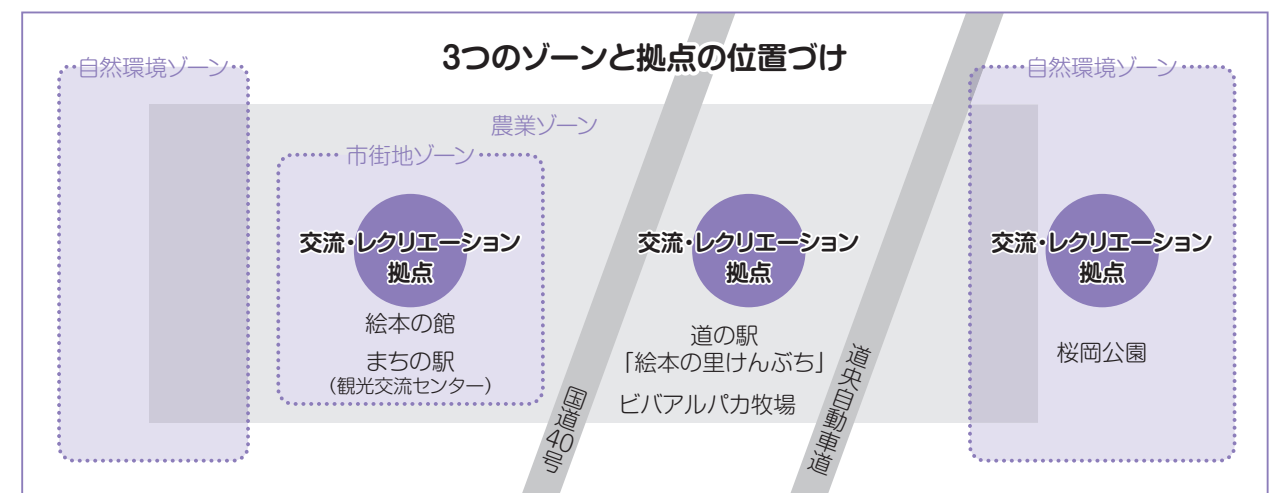
□ 自然環境ゾーン

森林や河川などの自然環境や動植物の生態系を保全するとともに、自然とふれあう場の適切な管理に努めます。

□ 交流・レクリエーション拠点

自然環境ゾーンの桜岡公園（剣淵温泉レークサイド桜岡、パークゴルフ場など）、市街地ゾーンの絵本の館やまちの駅（観光交流センター）、国道沿いの道の駅「絵本の里けんぶち」、ビバアルパカ牧場（民間）をそれぞれの拠点施設とし、町内外の人が交流する、楽しむことができる機能を高めます。

また、これらの拠点施設を結び付けるネットワーク化や道路網などの充実に努めます。



2 基本構想

4 まちづくり分野の基本方向

(1) 地域の資源を活力に、豊かなまちをつくる

人材、生産物、技術、ネットワークなど、剣淵町の資源を地域の活力としていくことができる産業の振興をめざします。

- 農林、商工、観光それぞれの分野で、社会情勢の変化に適応し、堅実な経営を確立することを支援し、住民がいつまでも安心して生活できる雇用・労働の確保に努めます。
- 商品開発や地産地消、町外への情報発信などが活発に行われるよう、行政をはじめ農業者、商工観光業者など、剣淵の産業に関わる業者や企業等が連携を深め、積極的に取り組んでいくようにします。

「基本計画」で示す分野

農業

林業

商工業

観光

特産品

就労環境

(2) 優しく、健やかな人を育むまちをつくる

“絵本の里”にふさわしい、人に優しく、心身ともに健全な住民を育むまちをめざします。

- 子どもたちが、生きていくために必要な知恵や思いやりの心、豊かな心を育み、自立した人間として成長するよう教育の充実に努めます。
- 心身ともに健康に過ごせるまちをめざし、子育て支援はもちろん、青年期から壮年期、熟年期、寿年期に至るまで、医療・保健・福祉の細やかな連携によりサポートします。

「基本計画」で示す分野

子育て支援

小学校、中学校

高等学校

青少年の健全育成

生涯学習

芸術文化、文化財

スポーツ活動

健康づくり

医療

地域福祉

高齢者福祉

障がい者福祉

社会保障

(3) 自然を感じながら、快適に暮らせるまちをつくる

剣淵町の自然環境や美しい景観を大切にしながら、住みよさを高めていくまちづくりを進めます。

- ずっと住み続けたいと思える生活環境の基本として、安全安心な基盤、心落ち着く憩いの場、移住、定住を促進できる居住環境、高齢社会を見越した交通体系などを整えます。
- 環境共生、自然保護に対する意識を持ちながら、快適さとともに環境への負荷にも配慮したまちづくりに努めます。

「基本計画」で示す分野

自然保護、
環境共生排水処理、
し尿処理ごみ処理、
リサイクル公園、
憩いの場

墓地、火葬場

防災

消防、救急

交通安全

防犯、
消費者対策

土地利用

住宅、宅地

水道

景観、
環境美化

道路

公共交通

情報通信

(4) まちづくりを楽しみ合えるまちをつくる

地域の課題を住民が協力し合うことで解決し、達成感をみんなで喜び、自然と笑顔があふれるまちをめざします。

- まちづくり課題を共有し、“協働のまちづくり※”によって解決する風土を醸成します。
- “協働のまちづくり”が次代を担う人づくりにつながるよう、今ある地域の活動やテーマ別の住民活動を応援するとともに、より多くの人から意見や参加を促します。
- 町内外での多様な交流を促進するとともに、まちの魅力や取り組みを町内外に積極的に情報発信します。
- 剣淵町の経営体として、地域の課題を迅速に捉え積極的に解決していく行政運営や限られた予算で事業を効果的に進める財政運営を行います。

「基本計画」で示す分野

交流

コミュニティ

まちづくり
活動

広報、広聴

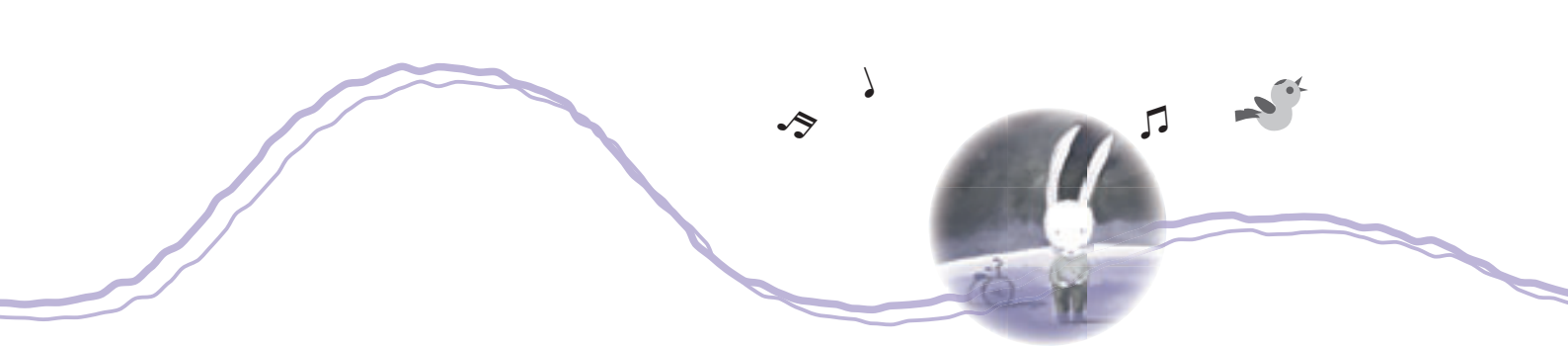
男女
共同参画

行政運営

財政運営

広域行政

※ 協働のまちづくり：住民と行政がお互いの立場を理解し補完し合い、地域の課題をともに解決しながら、まちづくりを進めていくことです。



まちづくり「絵・作文コンクール」入賞作品（その2）

小学4年生～6年生と中学生のみなさんから、『自分が思う未来の剣淵町』をテーマに、これからの剣淵について絵画と作文を募集しました。

作文の部(中学生の部)

「剣淵町について」

3年A組

吉田 萌子

（最優秀賞）

私は今の剣淵町とこれからの剣淵町について考えてみることにしました。今私たちが住んでいる剣淵町には、たくさんの良い所、これから考えないといけない問題点、この2つがあると思います。

剣淵町の良い所とは、町の人みんながやさしく、いなかならではの温かさがある所だと思います。そして、絵本の館や山田菓子店など全国に誇れるほどの楽しくておいしい場所もあります。なんといっても、畑や田んぼが多く広がる農業がさかんな町で野菜やお米などがとてもおいしい所です。さらに、自然や緑が多くあって、私の家のすぐ後ろは森や山がたくさんあります。

剣淵町は、人口も少なく小さな所だけど、とても住みやすく、おちつくとても良い所だと思います。

剣淵町の問題点とは、安全面が少しかけている所だと思います。

私は自転車で学校を登下校しています。ある日、私は部活が遅くなりいつも通り自転車で帰ることにしました。その時私は思いました。外は真っ暗で、街灯も少なく半分ぐらい自転車をこいだぐらいにはほとんど街灯がなく、自転車のライトだけではとてもこわく、危険でした。そして、朝や昼間でも歩道がない所が多く、車を気にして走らないと行けなく道のはじを走っていたのに、車の運転手に注意されることもありました。

これからは、もっと子供や高れい者、車を運転してる人、みんなが安全に安心して暮らせる剣淵町になればいいと思っています。

私はこの町が好きだから、町民がより暮らしやすくもっともっと楽しい剣淵町になることを願っています。

「私が考える未来の剣淵」

2年A組

井下 恵見里

（優秀賞）

まず、私が考える未来の剣淵を書く前に、私はこの剣淵町で育ってとても良かったと思います。

私が好きなのはたくさんあるけれどその中でも匂いが好きです。網戸にしたときの土の匂い、雨が降った時の地面の匂い。私はこの都会では感じる事のできない空気が大好きです。

そんな剣淵の未来がどうあってほしいかこれから二つ書きます。

一つ目は、「自然が豊か」という事です。今のように草や田畑が広がっていて私が大好きな匂いをなくさないでほしいです。今までのことを簡単にいうと「田舎」ということになるかもしれません。でも私はそんな「田舎」が大好きなんです。

二つ目は「剣淵町民仲良く」という事です。すれちがった人にあいさつをする。これは田舎からできる事なのかもしれません。しかもすれちがった人にあいさつをするのと仲良くする事は違うと思うかもしれませんが、何をするにもあいさつが基本だから、私はことうゆ事も大事だと思います。

たまに学校へ行く時、帰るときすれちがった人に『こんにちは』と言うと『いってらっしゃい。』、『お帰りなさい。』と言ってくれる人がいます。こういう言葉をかけられるとなんか心が温かくなっていくような気がします。そして笑顔にもなります。

私は未来の剣淵も今と変わりなく、書いたように「自然が豊か」で「剣淵町民仲がいい」そんな町であってほしいです。

でも未来の剣淵が私が書いた内容と真逆だとしても、私の『剣淵が大好き』という事は変わらないでしょう。



重点プロジェクト

「第5期剣淵町総合計画」では、「基本計画」のなかで、まちづくりに関わる全分野にわたって項目を設定し、取り組み内容を示しています。

これらの取り組みのなかで、特に剣淵町が重視して取り組むべき内容を抽出し、「3つのテーマ」に沿ってまとめました。